



問一 日本語史における「歌学」の意義について、具体的な対象を挙げて論述しなさい。

問二 修士課程における研究計画について概要を述べなさい。

問一 「紀行文学」について、具体的な対象を挙げて論述しなさい。

問二 修士課程における研究計画について概要を述べなさい。

問一 次の文は石川啄木「食ふべき時」の一節である。これを読んで以下の問に答えよ。

「食ふべき時」とは電車の車内廣告でよく見た「食ふべきビール」といふ言葉から思ひついで、假に各々つけたままでいある。

謂ふ心は、兩足を地面に喰つ付けてゐて歌ふ詩といふ事である。實人生と何等の間隔なき心持を以て歌ふ詩といふ事である。珍珠乃至は御馳走ではなく、我々の日常の食料の香の物の如く、然く我々に「必要」な時といふ事である。

斯ういふ事は詩を既定の或る地位から引下す事である。かも知れないが、私から言へば我々の生活に有つても無つても何の増減のなかつた詩を、必要な物の一つにする所以である。詩の存在の理由を肯定する唯一つの途である。

以上の言ひ方は餘り大雑駁ではあるが、二三年前末の詩壇の新しい運動の精神は、必ず此處にあつたと思ふ。否、あらねばならぬと思ふ。斯く私の言ふのは、其等の新運動にたづなはつた人達が二三年前に感じた事を、私は今始めて切實に感じたのだといふ事を承認するものである。

新しい詩の試みが今迄に受けた批評に就て、二二三三言つて見たい。

「なりとである若くはだの相違に過ぎない。」と言ふ人があつた。それは日本の國語がまだ語格までも變る程には變遷してゐないといふ事を指摘したに過ぎなかつた。

人の素養と趣味とは人によつて違ふ。或る内容を表出せんとするに當つて、文語によると口語によるとは詩人の自由である。詩人は唯自己の最も便利とする言葉によつて歌

ふべきである、といふ議論があつた。一應尤もな議論である。然し我々が「淋しい」と感ずる時だ、「あゝ淋しい」と感ずるのであらうか、將又「あな淋しい」と感ずるのであらうか。「あゝ淋しい」と感した事を「あな淋しい」と言はねば、判断——實行——責任といふ其責任を回避する心から判断を胡麻化して醒、状態である。趣味といふ語は、全人格の感情的傾向といふ意味でなければならぬのだが、往々にして、その判断を胡麻化した状態の事のやうに用ひられる。さういふ趣味ならば、少くとも私にとつては極力排斥すべき趣味である。一事は萬事である。「あゝ淋しい」

を「あな淋しい」と言はねば満足されぬ心には、無用の手續があり、回避があり、胡麻化しがある。其等は一種の卑怯でなければならぬ。「趣味の相違だから仕方がない。」とは人のよく言ふところであるが、それは「言つたとお前に解りさうにないからもう言はぬ。」といふ意味でない限り、卑劣極まつた言ひ方と言はねばならぬ。我々は今迄議論以外若くは以上の事として取扱はれてゐた「趣味」といふものに對して、もつと嚴肅な態度を有たねばならぬ。

少し別な事ではあるが、先頃青山學院で監督が何かしてゐた或外國婦人が死んだ。其婦人は三十年間日本にゐて平安朝文學に關する造詣深く、平生日本人に對しては自由に雅語を驅使して應對したといふ事である。然し、其事は決して其婦人がよく日本を了解してゐたといふ證據にはならぬではなからうか。(東京毎日新聞「明四二・一二・五

(1) 傍線部1、2はそれぞれどのようなことを言つているのか、説明せよ。

(2) 問題文を踏まえて、当時の文学状況を説明せよ。

#### IV 中国語学・中国文学（サンプル問題）

1・以下の文章を日本語に訳せ。

唐長安市里風俗每至歲元日已後通作飲食相邀號為傳坐東市筆生趙大次當設之有客先到向後見其碓上有童女年可十三四著青裙白衫以汲索繫頸屬於碓柱泣淚謂客曰我主人女也往年未死時盜父母百錢欲買脂粉未及而死其錢今在廚舍内西北角壁中然我未用既以盜之坐此得罪今當償父母命言畢化為青羊白頭客驚告主人主人問其形貌乃是小女死已二年矣於廚壁取得百錢似久安處於是送羊僧寺合門不復食肉

2・以下の詩を訳し、知るところを述べよ。

登岳陽樓 杜甫

昔聞洞庭水，今上岳陽樓。吳楚東南坼，乾坤日夜浮。  
親朋無一字，老病有孤舟。戎馬關山北，憑軒涕泗流。

3・以下の言葉を用いて、中国文学史を説明しなさい。（用語の順序は問わない）

- ・ 志怪
- ・ 伝奇
- ・ 敦煌變文
- ・ 四大奇書
- ・ 胡適

▽ 以下の設問に全て答えなさい。

問1 次に挙げる語句のうち、4つ (各グループから1つずつ) を選んで、簡潔に (数行程度で) 説明を加えよ。

- (1) 雲夢睡虎地秦簡 『塩鉄論』 (2) 貞観氏族志 唐蕃会盟碑
- (3) 漢議 『東京夢華録』 (4) 耶律楚材 吳三桂
- (5) 会昌の廃仏 国史事件 (北魏)

問2 唐代中国における外来宗教の流行について、知るところを述べよ。

問3 「澶淵の盟」は宋王朝と契丹 (遼) 王朝にとってそれぞれいかなる意味をもったか。また、それぞれの王朝にどのような影響を与えたか。わかりやすく説明せよ。

問4 下に掲げる文章について、以下の設問に答えよ。

- (1) 文章全体を訓読するか、もしくは現代日本語に翻訳せよ (解答に際しては、常用漢字を用いても構わない。また、訓読に際しては歴史的假名遣いを用いなくともよい)。
- (2) 文中で言及されている「顔之推」なる人物について、知るところを記せ。

顏猶字師古雍州萬年人齊黃門侍郎之推孫也其先本居瑯琊世仕江左及之推歷事周齊齊滅始居關中父思魯以學藝稱武德初為秦王府記室參軍師古少傳家業博覽羣書尤精詁訓善屬文隋仁壽中為尚書左丞李綱所薦授安養尉尚書左僕射楊素見師古年弱貌羸因謂曰安養劇縣何以克當師古曰割雞焉用牛刀素奇其對到官果以幹理聞時薛道衡為襄州總管與高祖有舊又悅其才有所綴文嘗使其掎撫利病甚親昵之尋坐事免歸長安十年不得調家貧以教授為業及起義師古至長春宮謁見授朝散大夫從平京城拜燧煌公府文學轉起居舍人再遷中書舍人專掌機密于時軍國多務凡有制誥皆成其手師古達於政理冊奏之工時無及者太宗踐祚擢拜中書侍郎封瑯琊縣男以母憂去職服闋復為中書侍郎歲餘坐事免太宗以經籍去聖久遠文字訛誤令師古於秘書省考定五經師古多所釐正既成奏之太宗復遣諸儒重加詳議于時諸儒傳習已久皆共非之師古輒引晉宋已來古今本隨言曉答援據詳明皆出其意表諸儒莫不歎服於是兼通直郎散騎常侍頒其所定之書於天下令學者習焉

二十七 唐傳二十三 五 王安